# 何かを護るために

星夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
何かを護るために

【Ｎコード】
Ｎ８６３２Ｅ

【作者名】
星夜

【あらすじ】
魔法が使える世界でカノンと仲間がモンスターから町を護る物語です

# プロローグ

この世界では最初なにも特別なことはなかった

けど、

約四百年前から特異な能力を持った子供が生まれるようになった

その能力を人々は魔法とよんだ

そして三百年前に歴史上最も魔力の強い魔導師が現れた…

その魔導師は

欲望にめがくらみ

世界を暗黒時代にし自分の思う通りにしようとした

しかし、

そのたくらみはほかの魔導師によって阻止された

ただ、阻止される瞬間その魔導師は呪いを世界中にばらまいた

その呪いは今も続いている

## プロローグ（後書き）

登場人物紹介

カノン
男１６歳
魔法の才能にあふれていて、守護者としての責任感が強い。ノイと幼なじみ
前線で戦うタイプの魔導師

ノイ
女１６歳
けっこう悪戯好きの女の子でしっかりしている。かわいいのでモテる。
魔法はサポートのものが多い

ダークハート（ＤＨ）
謎が多いモンスター
ランクはＡＢＣＤＥでさらに１２３で分けられる
守護者がいないとＤＨに町一つ全滅させられることも

## 第一話

「クソッ、なかなかしぶといな」

歳が１５～１６ぐらいの少年が吐き捨てるように言った

言った相手は人の二倍はある怪物

頭はイグアナみたく二足歩行で爪は鋭利で

身体は大きい割りには胴体や腕は意外と細い

少年が手を前で交差すると周りから光の筋がいくつも出てきた

その光の筋の先端が矢のように向かっていくと

怪物が危険を感じとって

避けようとするが

間に合わず、

全身に突き刺さる

そして聞きぐるしい悲鳴をあげて徐々に体が粉になって消えていった

「ふうっ」
と少年が気のぬけた声で座りこむと

「カノン、C2ランクのダークハート（DH）を倒せるようになったんだ！」

かわいらしい声が空から聞こえてきた

「見てたんなら手伝ってくれよ。ノイ」
苦笑しながらカノンが抗議すると

「なんかカノン一人で勝てそうだったし、それにピンチに現れた方がカッコイイじゃん」
といたずらっぽく言いながら空から降りてきた

はぁーと肩を落としながらカノンは
「師匠達は揃ってどこ行ったんだ？町を俺ら二人に任せて」
とノイに聞くと。

「あぁ、カノンの師匠はDH討伐の援助を依頼されてそっちに、うちの師匠は新しい見習いを迎えに行ったけど」

「ふーん、うちの師匠に助けを求めるってことは相当てごわ…
って、新しい見習い！？」

カノンはすごく驚いてたが、ノイは普通にうんと答えた
「…あのおっさん何考えてんだ」
カノンは半ば呆れたように言った

## 第二話

カノンとノイはまだそれぞれ一人前と認められいないのだ、
「まだ認められてないのに新しく見習いを連れてくるのか？」
と訴えると

ノイは
「いえ、師匠らは私たちを独り立ちさせるって言ってたよ」
とサラっと言った

「マジ！？聞いてないし！
でも、やった♪」
カノンが認められたことを喜んでると
ノイが

「それに今度くる見習いカノンが世話するんだよ」

「！！！？？？」

数秒固まってから
「…つまり、俺が師匠？」

ノイがそうと言ってさらに説明を加えた
「見習いが住んでる村は守護者になれる人がいないんだって、

だから師匠は見習いが一人前になるまであっちで守護者になるの」

動揺しながらカノンは
「あっちで師匠が見習いを育てればいいんじゃ…」

「そこの村のＤＨは強力なのが多いから危ないらしいの」

「それならうちの師匠に…」
そういえば、と言ってみるが

「場所が遠いから戻るの大分先だよ。
しかも、めんどいから任せるって」

「あのババアー！！」
カノンがキレてると

ノイが
「ＤＨの反応！」

カノンが舌打ちしながら
「こんなに早く新しいのがでるなんて珍しいな。
今後は手伝えよノイ」

そして
カノンは紅い翼を
ノイは純白の翼を背に出現させて飛んでいった

よく晴れた満月の夜のことである

反応があった場所へ着くと長い尻尾がある巨大な鳥が馬を平らげるとこだった

ノイが唖然とした声で
「嘘…C1のDH……」

「やばいな、また強力なのが。
俺もうさっきの戦闘で魔力半分もないぞ…」
カノンにも焦りがでてた

## 第三話

このままではいけないと考え、ノイに提案した
「おい、ノイ前修業中にだした魔力の力を増大させる魔法陣気付かれないようかけるか？」

ノイは困ったように
「かけるけど…時間がかかるよ？」

「5分なら時間稼ぎができる。その時間でできるか？」
カノンが問うと

「頑張る！でも、5分も大丈夫？」
心配そうに聞くと

「大丈夫だ。未完成だけど新しい魔法を習得したから。
時間稼ぎにはもってこいのやつ
それじゃ、気付かれないよう空中にかいてくれ
」
そういって妖鳥に突っ込んでいった

大気を切り裂く真空の刃が妖鳥を切り裂いた

軽い悲鳴とともに妖鳥は敵を確認
そして咆哮

「どこまで持つかわからんけど5分間はもってくれよ」
そういって集中し全身に魔力を纏わせた

魔力がほとばしり、弾け収まると青い服装に紅い翼のカノンが現れた

妖鳥は長い尻尾で突き刺しにくるが
カノンが寸前で避ける

（クソッ思ったより早い！）
カノンが内心舌打ちしてるて

避けたあと突き刺さった地面を見ると草が溶けていた

「クソッ猛毒か…」
文句を口にした時妖鳥が大きな口を開けはじめた

その瞬間火を吹く

（舐めんな！こっちはスピードに特化したバトルフォームだ！！）

しかし至近距離だったので左腕は直撃してしまった

（ノイは今魔法陣かいてるから回復してもらえないな…　まだか？）

「周りをスピードで撹乱させてやる」

カノンは撹乱させながら真空の刃で徐々にダメージを与えていった

## 第四話

（このままいけば大丈夫だ！）
と油断したとたん

妖鳥が下をむく
カノンが何をするか気付く前に
さっきの何倍もの火力で火を地面に吹いた
途端に火が周りに拡がり、カノンを巻き込む

カノンは咄嗟に防御魔法を出したが、
それでもダメージが深刻だった

（ここで死んでたまるか！俺はあいつを護るためにここまで強くなったんだ…）

カノンが意識を保っていられるのはもはや執念だった

しかし、妖鳥の攻撃をかわしながらだと

それも限界

バタッ

身体に限界がきて倒れたが、まだ意識は奇跡的に保っていた

妖鳥がとどめをさそうと尻尾を

突き刺そうとしたが

魔法障壁に阻まれた

その瞬間上から数本の矢が妖鳥を貫く

妖鳥は痛みにもがいて上にいた敵を今確認

その間にカノンは身体と魔力が徐々に回復してきた

「遅くなってごめん…」カノンの前に降り立ちながらノイが言った

「まだ、全然余裕だったけどな。
意外と早くてびっくりだ。」
強がりを言いながらカノンが起きると

妖鳥が痛みに耐え怒りの形相でこっちを見据えてた

「身体も魔力もバッチリ良好だ
いくぞノイ！！」

それを合図に二人と一羽は動いた

妖鳥は貫かれた怒りからノイに攻撃をするが
遠距離攻撃をするノイには届かない

その間にカノンはフォームチェンジをして
紅い服装に紅い翼になった

今度は逆にノイが攻撃しカノンなにか地面に仕組んでいる

冷静になった妖鳥がカノンに気付くが

もう遅かった

「灼熱の炎に抱かれて死ね…」

言った途端

巨大な火柱があがり妖鳥を跡形もなく消しさった

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8632e/

---

何かを護るために

2010年10月9日21時39分発行